



カトリック新潟教区
編集発行人 教区報編集部
〒951-8106
新潟市東大畑通1-656
TEL. 025-222-7457
FAX. 025-222-7467

ドミニコ

高橋 学神父誕生

十年ぶりの恵みに感謝

ドミニコ高橋 学まなぶ助祭の司祭叙階式が四月二十九日正午から新潟カテドラルにおいて菊地 功司教司式により行われ、一九九五年以来十年ぶりに教区司祭が誕生した。仙台から両親、友人をはじめ東京からの神学生、教区内外から聖堂を埋めつくした三五〇人を超える信徒が新司祭の誕生を見守り、喜びのうちに神への賛美と感謝を捧げた。

正午、響きわたるお告げの鐘の音の中を、香炉、十字架、ろうそくを先頭に、侍者と三人の助祭団、受階者高橋助祭、三十人の司祭団、川崎久雄神父(教区司教総代理)、平田豊彦神父(東京カトリック神学院々長)、主司式者の菊地司教は入堂、「主を称えよう」の典礼聖歌を迎えられて叙階式がはじまった。

福音の朗読のあとに受階者の高橋助祭が呼び出されて、司教が「この兄弟を司祭団に加えることを認めると」神に感謝」と参列者全員が唱和して賛同の拍手が沸き起こった。

菊地司教は説教で高橋助祭の両親、養成に携わった東京カトリック神学院に対して感謝を述べ、高橋助祭に向かって司祭は誰一人として自分のために司祭になつたのではない。人々に仕

の力で司祭を育ててくれる。

司祭職を果たしていくに当たってさまざまな困難に直面するかも知れない。その時には神学生の時から司祭になつてからも祈りをもって支えてくださつた多くの人々を思い起こして、その祈りの力に委ねていただきたい。そして司祭への道へと呼び出してくださった神の招きに信頼してください。

司祭の背後には常に祈る信徒と、一緒に歩まれるイエスがおります。信徒の祈りと神の暖かい守りの手に委ねていただきたくと論じた。

参列者に向かって、きょうの司祭叙階の恵みを神に感謝しようと呼びかけた。

え奉仕することを最大の目的としている。司祭の人生は自分の人生であると同時にすべての人の人生でもある。

司祭が身を粉にして奉仕すること、その司祭によって支えられ慰められた人たちが、祈り

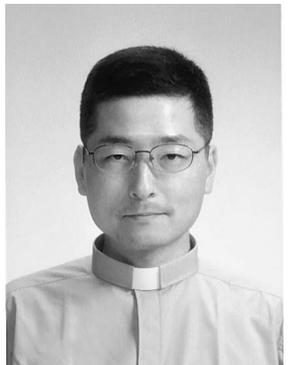
祭壇の前の菊地司教と司式司祭、そのうしろに床に伏す高橋助祭、参列者全員は起立して心を合わせて諸聖人に取り次ぎを願う連願を唱えた。

連願のち司教は、受階者が



喜びを分かち合う新司祭

新司祭に聞く



○まず、信徒の皆様へ一言。

—平素から新潟教区一粒会への献金や司祭・修道者への召命のための祈りなどの方法で、新潟教区神学生の育成に、寄与されている信徒の皆様へ、御礼を申し上げます。お陰様で四月二十九日に新潟

教会で、新潟教区長タルシオ菊地功司教様より、司祭叙階を賜りましたことを、御報告申し上げます。神学生にしていたらから八年後の叙階でした。

○カトリック司祭の道を選んだ理由は？

—私達の幸福は、生活用品の充足だけでは十全に実現することが出来ず、幸福に近づく生き方を身に付けることに、優先する価値があると、考えたこと。カトリック教会の信仰は、本当に幸福に至る生き方を示し、恩恵を与えていると、確信したことなどです。

○目指す司祭像は？

—信徒の一人としての立場から、私達が司祭に求めるものは、何でしょうか。主と私達との仲介役を果たしていただくことであろうと、考えております。従って、この司祭像に近付いていくために、今後研鑽を積んでまいります。宜しく御指導の程を、御願ひ申し上げます。

○趣味と自己紹介を。

—ボール紙を使って紙飛行機を作ったり、自然界の仕組みを学んだり、考えたりすることが好きです。

議会議長藤原会長のお祝いの挨拶があった。

菊地司教は「教区で最初にお祝い申し上げます。さまざまな苦勞も多いことと思うが、信徒の皆さんの祈りと支えによって困難を乗り越えていただきたい。また皆さんには新司祭のあとに続く司祭の召命のため一層の祈りとご努力をしていただきたい」と述べられた。

続いて司教養成に携わっておられる平田神学院々長は「司祭職を目指すことは、自分の人生を深く考えることの中から始まるのです。皆さんにお願いしたいことは、常に召命に関心をもち、その芽を育てていただきたいのです」と語られた。

教区信徒協会は、宮城県出身の新司祭が働きの場所に新潟教区を選ばれたお礼と新司祭に

続く召命促進の決意を教区信徒に呼びかけた。ご両親のご挨拶に続いて高橋司祭は「おかげさまで神父になりました。ありがとうございます。これまでお世話になつた方々のために、ひたすらお祈りしました」と感謝を語った。

式後三〇〇人を越す参列者は聖堂に近い新潟カトリックセンターのホールで祝賀会を開いて新司祭と共に恵みと喜びを分かち合った。

高橋 学司祭は一九六六年十一月四日生まれ。一九九一年仙台教区宮城県北仙台教会で受洗。一九九九年東京カトリック神学院入学。二〇〇四年三月二十八日に新潟教会で助祭に叙階。五月一日付で新潟教会助任として赴任した。

豊かな実りを

目の前にして

司教 菊地 功

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主の願いなさい。(ルカ十章二節)」

四月二十九日に高橋 学新司祭が新潟教区に誕生し、十年ぶりに教区司祭団に「新人」が加わりました。叙階を受けられた高橋神父様とご家族にお祝いを申し上げるとともに、収穫のための働き手を送って下さる主に、教区全体の心を一つにし

ながら感謝を捧げたいと思います。この慶事に喜びをともにしながら、同時に教区の皆様お一人おひとりに、是非とも考え、また祈っていただきたいことがあります。それはいうまでもなく、高橋新司祭に続く、司祭志願者の召命の問題です。まさしく福音に述べられているように、「収穫は多いが、働き手は少ない」のです。今回の叙階によって、新潟教区には司祭志願者が全くないことになりました。仮に、今すぐ志願者を見出すことが出来たとしても、その方が司祭に叙階されるのは、最短で七年後なのです。

新潟教区には幸いにも、それぞれの県で働いて下さっている三つの修道会があります。その献身的な宣教努力には、本当に感謝以外ありませんし、今後ともそれぞれの修道会の協力がなければ、教区の活動は滞ってしまいうでしょう。しかし本来であ



子ども達を育む芽の出しの召し出しの芽を育む

れば、教区の主力は司教とともに働く教区司祭なのです。残念ながら現時点では、教区司祭の働きは主に新潟・新発田地区に限定されてしまっています。もちろん絶対的に人数が少ないのが第一の理由ですし、同時に平均年齢も高いことから、後継者不在への不安も絶えません。

故ヨハネパウロ二世教皇は、今年の世界召命祈願日(四月十七日)のために用意されたメッセージの中で、司祭・修道者・信徒に対して次のように呼びかけられました。

「キリストの真の友また真の弟子になれるように、若者たちを助けてください。大人のキリスト信者が、自分のことばと模範でキリストをあかしできるならば、若者たちも、十字架の神秘によって示されたキリストのメッセージが求めることを、喜んで受け入れることができるようになります。」

私は今年の年頭書簡において、「多様性における一致」を基礎にして、教会共同体作りを取り組むことを皆さんに呼びか

け、こう書きました。「私たちが共同体を形づくる目的は、ただお互いに仲良く楽しく一時を過ごすことにあるのではなく、あくまでも共同体の生き方を通じてイエスの福音をあかしすること、すなわち宣教にあるのです。」福音の「あかし」による

宣教の業は、まず第一に福音がまだ告げられていないか十分に告げられていない人たちを対象として行われるものですが、同時に福音宣教が「全ての人」を対象とすることを考えるとき、わたしたちキリスト者の間でも継続した信仰養成のための「あかし」による福音宣教が不可欠です。それによって一人ひとりが信仰において成熟するとき、「先輩信徒」の生きる姿に触発された若者が、司祭や修道者への道を歩む決意を固め、また教会共同体のリーダーとなっていくのです。その意味で、「あかしの業」としての教会共同体育成に真摯に取り組むことは、召命促進にも繋がるのです。司祭・修道者の召命促進は、ひとり養成担当司祭の責務なのではありません。教会共同体が、その将来のために、自らの司祭を育てて行かなくてはなりません。

新潟教区の皆様、どうか召命のために祈り下さい。佐藤司教様が唱えることを薦められた「召命のための共同祈願」を、継続して祈って下さい。そして共同体作りを通じて、自らの信仰をあかしして、将来の教会を担う司祭・修道者・信徒リーダーを育てていきましょう。

「多様性における一致」を基礎にして、教会共同体作りを取り組むことを皆さんに呼びか

け、こう書きました。「私たちが共同体を形づくる目的は、ただお互いに仲良く楽しく一時を過ごすことにあるのではなく、あくまでも共同体の生き方を通じてイエスの福音をあかしすること、すなわち宣教にあるのです。」福音の「あかし」による

宣教の業は、まず第一に福音がまだ告げられていないか十分に告げられていない人たちを対象として行われるものですが、同時に福音宣教が「全ての人」を対象とすることを考えるとき、わたしたちキリスト者の間でも継続した信仰養成のための「あかし」による福音宣教が不可欠です。それによって一人ひとりが信仰において成熟するとき、「先輩信徒」の生きる姿に触発された若者が、司祭や修道者への道を歩む決意を固め、また教会共同体のリーダーとなっていくのです。その意味で、「あかしの業」としての教会共同体育成に真摯に取り組むことは、召命促進にも繋がるのです。司祭・修道者の召命促進は、ひとり養成担当司祭の責務なのではありません。教会共同体が、その将来のために、自らの司祭を育てて行かなくてはなりません。

新潟教区の皆様、どうか召命のために祈り下さい。佐藤司教様が唱えることを薦められた「召命のための共同祈願」を、継続して祈って下さい。そして共同体作りを通じて、自らの信仰をあかしして、将来の教会を担う司祭・修道者・信徒リーダーを育てていきましょう。

「多様性における一致」を基礎にして、教会共同体作りを取り組むことを皆さんに呼びか

け、こう書きました。「私たちが共同体を形づくる目的は、ただお互いに仲良く楽しく一時を過ごすことにあるのではなく、あくまでも共同体の生き方を通じてイエスの福音をあかしすること、すなわち宣教にあるのです。」福音の「あかし」による

宣教の業は、まず第一に福音がまだ告げられていないか十分に告げられていない人たちを対象として行われるものですが、同時に福音宣教が「全ての人」を対象とすることを考えるとき、わたしたちキリスト者の間でも継続した信仰養成のための「あかし」による福音宣教が不可欠です。それによって一人ひとりが信仰において成熟するとき、「先輩信徒」の生きる姿に触発された若者が、司祭や修道者への道を歩む決意を固め、また教会共同体のリーダーとなっていくのです。その意味で、「あかしの業」としての教会共同体育成に真摯に取り組むことは、召命促進にも繋がるのです。司祭・修道者の召命促進は、ひとり養成担当司祭の責務なのではありません。教会共同体が、その将来のために、自らの司祭を育てて行かなくてはなりません。

新潟教区の皆様、どうか召命のために祈り下さい。佐藤司教様が唱えることを薦められた「召命のための共同祈願」を、継続して祈って下さい。そして共同体作りを通じて、自らの信仰をあかしして、将来の教会を担う司祭・修道者・信徒リーダーを育てていきましょう。

叙階式参列者の喜びの声

参列者から多くの喜びの声が寄せられました。

◆自分の叙階の時を思い出して感動した。一緒に頑張った仲間がいて、おめでとう。(新潟教区司祭)

◆私たちはこの日を待っていました。受洗の当時から知っていたのだから、ほんとうに嬉しい。(北仙台教会女性)

◆おめでとございます。張り切りすぎないように頑張ってください。マイペースでいいのですよ。(東京洗足教会男性)

◆黙々と教会に奉仕する神学生でした。叙階式にこられたのが、大勢の人の祈りと喜びを預かってきています。おめでとう。(東京日野市高幡教会女性)

◆おめでとございます。私もみんなの祈りを聞きとじてくださった新しい神父様の誕生を神様に感謝します。どうぞ私どもを指導ください。(新潟教会女性)

◆高橋神父様のご健勝とご活躍をお祈りしています。(村松教会男性)

◆おめでとございます。高橋神父様に続く若い司祭の誕生を祈ります。(青山教会女性)

◆おめでとございます。これからも錬成会に来てくださいます。楽しいにしています。(寺尾・青山教会女子高校生)

◆新潟の司祭誕生は十年ぶり聞きびつくりしました。高橋神父様頑張ってください。(寺尾教会男子高校生)

◆おめでとございます。私たちが心をひとつにして、よりよい共同体作りができるよう指導ください。(新潟教会女性)

◆おめでとございます。しんぶさま、おしごとをがんばってください。(新潟教会男児7才)

◆教区にとって待ちに待った十年ぶりの召命を成就してくださった主に感謝します。新司祭を捧げてくださったご家族にも感謝申し上げます。

◆すばらしい神父様になってくださるよう、さらに祈らせて頂きたいと思えます。

◆同時に次なる召命に向かって多くの祈りが必要と思えます。教区の信徒たちが、区師が指導されますように『まず自分の子を召してください。そして人さまの子もお召してください』と祈れば、必ず主に聞きとけられると思います。(寺尾教会男性)

司祭人事(四月一日付任命)

《新潟地区》
*カッコ内はこれまでの任務

◆山頭泰種神父は亀田教会主任(フィリピン派遣)

◆ルイス・フェルナンド神父は花園教会助任(花園教会助任兼鳥屋野教会助任)

*鳥屋野教会は四月一日より花園教会の分教会

◆山田恵尚神父は病氣療養(亀田教会主任)

《山形地区》
◆川又巳三男神父は米沢教会主任兼長井教会(巡回)主任(さいたま教区那珂教会主任)

◆ピアス・マレン神父は山形教会主任兼新庄教会(集会所)主任(山形教会主任)

◆千原通明神父はさいたま教区取手教会へ転出(米沢教会主任兼長井教会主任)

◆中沢亨次郎助祭は友部本部修道院へ転出(酒田教会担当助祭)

《秋田地区》
◆伴 八郎神父は大館教会主任兼鹿角教会主任(名古屋教区)

◆飯野耕太郎神父は秋田教会主任兼土崎教会主任(土崎教会主任)

◆ヘルマヌス・スパン・マキン神父は教区外へ転出(土崎教会助任)

◆ホセ・ルイス・ロレンゾ神父は教区外へ転出(秋田教会主任)

◆ノルベルト・ナハク神父は教区外へ転出(大館教会主任兼鹿角教会主任)

(五月一日付任命)

◆高橋 学神父は新潟教会助任(四月二十九日司祭叙階)

菊地司教の小教区公式訪問日程

(2005年6月19日以降)

| | |
|-----------------|-------|
| 加茂教会 | 6月19日 |
| 長岡地区信徒大会(高田教会) | 6月26日 |
| 三条教会 | 7月10日 |
| 本荘教会 | 7月17日 |
| 能代教会 | 7月24日 |
| 大館教会 | 9月11日 |
| 亀田教会(堅信) | |
| 鹿角教会 | 9月18日 |
| 長岡表町教会・福住教会(堅信) | 12月4日 |

故ヨハネ・パウロ2世教皇の逝去を悼む

四月八日の故ヨハネ・パウロ2世教皇様の葬儀の日にあわせて、新潟カテドラルで午後七時から菊地司教司式の追悼ミサを行い、二七〇人を超える信徒、超教派のキリスト者、一般市民が参列して、教皇様の逝去を悼むとともに比類のないお働きに感謝を込めて祈りを捧げた。

*

故教皇の逝去に際して日本カトリック司教協議会会長野村純一司教は、「キリストを信じる皆様」へメッセージを寄せた。「わたしたちは今日大変悲しい知らせを受けました。主は敬

愛する教皇ヨハネ・パウロ二世を現地時間四月二日午後九時三十七分(日本時間四月三日午前四時三十七分)にみもとにお召しになりました。享年84歳でした。二十六年余にわたってカトリック教会を導き、全世界の人々の和解と平和を訴え続けた教皇の逝去に際して深い悲しみを覚えます。」

ベネディクト16世教皇就任

CNS通信によると、新教皇に選出、就任されたベネディクト16世は、就任直後の四月十九日バチカンの聖ペトロ大聖堂の

バルコニーに立って、サンピエトロ広場に詰めかけた10万人に近い群衆の声援に応えた。「偉大な教皇ヨハネ・パウロ



新教皇ベネディクト16世

待ち望んでいました。」

「なにより印象的であったのは、教皇が常に示したすべての人への思いやり、特に、難民、避難民、貧しい人、病気の人、高齢者、子ども、女性への愛の心でした。現代社会を覆う「死の文化」を排して「いのちの文化」を生きたことを強く訴えました。自らの老いと病の苦しみをキリストの受難に合わせて、最後まで苦しむ人のために祈り、連帯しようとした姿勢は世界の人々へのメッセージでした。」

(カトリック新聞二〇〇五・四月一〇日引用要約)

2世の後任に、枢機卿の方々は、主のぶどう畑の卑しく取るに足らない働き手である私を選ばれました」

「私は、主が不十分な道具を通してさえも主が働かれ、その業を行われるという事実に慰められる思いです。そして特に私は自らをあなたがたの祈りに委ねたいと思います」

「復活された主の喜びのうちに、また主の絶えざるお助けに信頼しつつ、私たちは前進します。主は私たちが助けてくださいます。そして主の至聖なる御母マリアが私たちのそばにいてくださいます。ありがとう。」と述べて全世界に祝福を送った。

*

新しい教皇様は一九二七年ドイツ生まれの七十八歳。一九五



この子が大人になる頃、この国はどのように変わっているだろう。

山頭神父のフィリピンレポート

山頭 泰種
亀田教会司祭

不思議なご縁でフィリピンへ行きました。十七年間滞在しました。東京とマニラは飛行機で四時間くらいです。気候、経済状況、宗教、考え方が違うことばかりです。植民地下に置かれるとどうなるか、東南アジアや南半球の発展途上国の現状がそれを物語っています。日本においてどうして厳しいキリシタ

山頭神父のフィリピンレポート

ン迫害が行われたかには理由がありません。この地上で国と国との間でいじめがあれば、人々の間にもいじめが実在します。

○サマル島での三年間

ルソン島にある首都マニラからバスで二十時間程南下したところ、サマル島があります。最初の三年間をこの島の小教区で過ごしました。この小教区には三十の巡回部落があります。ひと月に訪ねて行けるのは五、六の部落のみです。この地方の方言はワライ語。住民のほとんどはカトリック信者。病人が出て薬が買えない、病院に連れて行けない彼らは、自分たちの粗末な家に病人を寝かせ、回りに座って祈りながらお迎えが来るのを待ちます。人間が生きることを体験させてもらった三年間でした。

○マニラ西本オフィスでの二年間

マニラとフィリピンの掛け橋となつて奉仕している西本神父様に会い、一九九一年から彼のオフィスで奉仕しました。ここでの私の仕事は日比国際結婚のお世話でした。一年間に八〇〇組程の結婚があります。西本オフィスに来るのは一割くらいです。このオフィスでの十二年間は私の人生で最高に意義のある充実したものでした。我々の人生で起こり得る問題なら何でも飛び込んで来ていました。

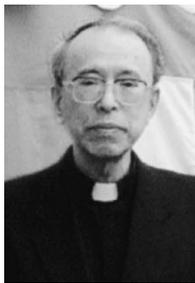
○サント・ニーニョ小教区での二年間

西本オフィスを辞めてからの二年間は、マニラ市内の一つの小教区で客人司祭として奉仕しました。信徒数は八万人。日曜日のミサは十回。毎週日曜日の幼児洗礼数は平均二十人。主任司祭と我々二人の客人司祭。日曜日だけは外部から数人の司祭が応援に来ます。この小教区の真中をフィリピン国有鉄道の汽車が走っています。その線路の両脇はスラム街です。急病人が出たり、死人が出ると人々は司祭を呼びに来ます。彼らの要望に応えることを通して、スラムで生活している人々の現実をつぶさに見せてもらいました。どんなに努力をしても、あるレベル以上には這いあがれない障壁がある、これが植民地下に置かれた子孫の哀しさのようです。

(カトリック新聞二〇〇五・五月一日日付引用要約)

愛と出会いと 現存の秘蹟

鎌田耕一郎
新津教会司祭



聖体の年にあたって、聖書をたどりながらこのたぐいなき秘蹟を見つめてみたい。

愛の秘蹟

聖木曜日の夕暮れが迫り、イエスは弟子たちと共に「最後の晩餐」と呼ばれる過越の食事の席につく、この時間は、イエスが「切に願っていた」(ルカ22・15)時間であり、「世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛しぬかれた」(ヨハネ13・1)。

現存の秘蹟

復活の日の夕、エマオをめざして歩む二人の弟子。「暗い顔で」(ルカ24・17)と記されているように、イエスの十字架の死は彼らのすべての夢と希望を奪ってしまった。一人の旅人が近づき語りかける。彼らの心は不思議に燃え立つのを感じるが旅人が誰であるか分からない。「パンを裂いてお渡しになつた。すると二人の目が開け、イエスだとわかった」(ルカ24・30-31)と述べられる。「パンを裂くこと」(使徒行2・22、20・7、Iコリント10・16)は、初代教会では、聖体祭儀を意味している。したがってこの出来事は、復活のキリストとの出会い、み言葉の祭儀と聖体のパン裂きという新しい次元で行われることを示している。

現存の秘蹟

イエスのご誕生についてイザヤの預言が引用され、「その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は、「神はわれらとともにいます」という意味である。」(マタイ1・23)とのべられ、また最後のみ言葉は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる」(マタイ28・20)である。イエスが「パンを取り、杯を取

「わたしの記念としてこのように行いなさい」(ヨハネ22・19)といわれるとき、聖体の神学的な理論よりも、イエスの心に満ち溢れる切なる愛のみ業であることを忘れてはいけない

り、これはわたしの血である。」(マタイ26・26-27)といわれる時、このみ言葉は用いられたパンと主の体と、また杯に注がれたぶどう酒と主の血が同じであることを単純明快に意味している。使徒パウロが「ふさわしくないまま主のパンを食べ、杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。」(Iコリント10・27)と述べるとき、聖体における主の体と血の肉実の現存を示している。

カファルナウムでの聖体についての教えの中で、イエスは決定的に語られる。「わたしの肉を食べ、私の血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである」(ヨハネ6・54-55)とご自分が秘蹟において現存することを示しておられる。こうして主は「共にいる」ことを秘蹟的に現実化したのである。

聖体は主イエスの切なる愛のしるしとして、人生の旅路を労苦して歩む者との出会いの場として、そして常に共におられる現存の糧として与えられる。私たちのなすべきことはこの賜物を、十字架の贖いと同様に、感謝して受け取ることであり、その感謝の受容こそキリスト教信仰の基本的な姿勢でもある。そして聖体はエウカリスチア(感謝)とも呼ばれる。

新潟教区司祭評議会の第二回総会が三月二十二、二十三の両日開かれた。議題と内容は次のとおり。

一、司教公式訪問のあり方について
二〇〇六年からの小教区公式訪問について菊地司教から提案があり、教区内の各小教区を二年に一度の割合で訪問することとし、偶数年には新潟、新発田、長岡地区、奇数年には山形、秋田地区を訪問する。訪問日程は前年の待降節までに調整し、新年の教区報でも公示する。訪問の際にはミサ後に信徒と懇談の機会を設けて欲しいし、

懇談が始まる前に、少し皆さんにお話をさせていただく時間があれば幸いである。それとは別に、信徒の代表の方々(信徒会長や役員)とお会いして、小教区の実情などを聞かせていただく時間があれば幸いである。

二、教区司祭の集いについて
テーマの「教会共同体作り」について話し合う。一日目は司教講話(グループごとの話し合いの示唆をしよう)。二日目は全体会と司教のまとめ。ミサを行う。そのほか六月の司祭の集いには菊地司教から教区の課題と取り組みについて具体的な提案をしていただき、その

後、話し合いを行う予定である。三、教区信徒大会準備の進捗状況について
大会原案は整ったが、プログラムは流動的で、五月二十三日に鶴岡で行われる顧問会場で了承を得て最終決定する。大会要項は六月上旬に発送予定。(教区大会の記事参照)

四、教区会計報告と話し合い
二〇〇四年度の教区会計の報告と説明がなされ、話し合いをした。(教区会計収支の記事参照)

五、各地区の動きと予定
各地区の動きや予定について報告と情報交換を行った。

司祭評議会から

菊地司教が提案

小教区公式訪問のあり方

新潟教区の 役職者・委員会等担当司祭・実務担当者など (2005年4月29日発令)

- 司教総代理 川崎久雄師
- 事務局長 大瀧浩一師
- 会計顧問 川崎久雄師 大瀧浩一師 鎌田耕一郎師
- 高藪修師
- ブルーノ・ファブリ師 本間研二師(飯野耕太郎師、6月以降)
- 地区長 秋田地区：桃田清明師(新)
- 山形地区：本間研二師
- 長岡地区：フーベルト・ネルスキャンプ師(新)
- 新潟地区：大瀧浩一師(新)
- 新発田地区：佐藤允広師
- 広報関係 ラウル・バルデス師(担当司祭)
- 斎藤清氏(実務担当者)
- 高藪修師
- 典礼 難民移住移動者 佐藤勤師、フーベルト・ネルスキャンプ師(船員司牧)
- 町田正師
- カリタス 佐藤勤師(新)
- 正義と平和 石黒晃泰師(責任者)、高橋学師(補佐・新)
- 青少年 佐藤允広師(担当司祭)
- 信徒使徒職 川崎久雄師、大瀧浩一師
- 神学生養成 山頭泰種師(新)
- エキュメニズム 大瀧浩一師(新)：継続養成講座企画や聖体奉仕者養成講座企画など
- 信徒継続養成 高藪修師
- カトリック学校連合会 高藪修師
- (窓口)
- 信仰弘布会 大瀧浩一師(新)
- 力児童福祉会 大瀧浩一師(新)
- 宣教地司祭育成 大瀧浩一師(新)
- 一粒会 大瀧浩一師(新)

9月23・24日鶴岡で教区信徒大会開催へ

福音に生かされた教会共同体づくりを目指す。

九月二十三日(秋分の日)と二十四日(土)の二日間にわたって山形県鶴岡教会を会場に開催される教区信徒大会の準備は順調にすすみ、四月三日(日)、教区大会事務局の鶴岡教会で大会原案が話し合われた。

大会のテーマは「福音に生かされた教会共同体づくりを目指す」で、溝部 脩司教(高松教区長)のミサで開幕し、溝部

司教の基調講話の後、参加者の交流会とベネディクション(聖体賛美式)を予定している。二日目の二十四日は、菊地 功司教司式のミサで正午までに閉会の予定としている。

大会要項と参加申込用紙は六月上旬に配布の予定で、大会実行委員会では信徒多数の参加を呼びかけ、参加申込みの締切日は七月三日(日)頃としている。

雪の聖母聖堂

献堂落成記念ミサで祝う 妙高教会

五月三日十一時、鐘楼から鐘の音が響き、残雪の妙高山麓に新築移転した妙高教会、雪の聖母聖堂の献堂落成記念ミサが捧げられた。

ミサは菊地司教主司式によって、二十人の司祭の共祭で執り行われ、新潟教区内から多数と、長野県佐久教会から二十五人余りのほか、長野教会、軽井沢教会、富山県魚津教会などから参列した二〇〇人を超えるミサ・信徒たちが聖堂を埋めて喜びを分かち合った。

ミサの説教で菊地司教はお祝い述べて、続けて「この建物の中にキリストを信じる信徒の共同体が存在しているこそ神の聖なる教会といえる。この建物の中でどのような共同体を育てていくかが大切であって、これ



20人の司祭200人の信徒と祝う献堂ミサ、菊地司教

からは信徒の皆さんの努力が求められている」と説いた。

ミサに引き続き落成式が行われ、聖堂建築に携わった関係者への感謝状の贈呈と、最後に妙高教会の信徒二人に、聖体奉仕者任命書の授与式があり十二時三十分閉式した。

午後からは昨年研修の場として確保した二一〇〇坪の土地と、温泉付きの木造施設で、地元信徒の人たちが料理した竹の子汁など手造りの祝宴が設けられて、聖母月の青空と雪嶺に映える、五弁淡紅白色の山桜の下でのお祝いであった。

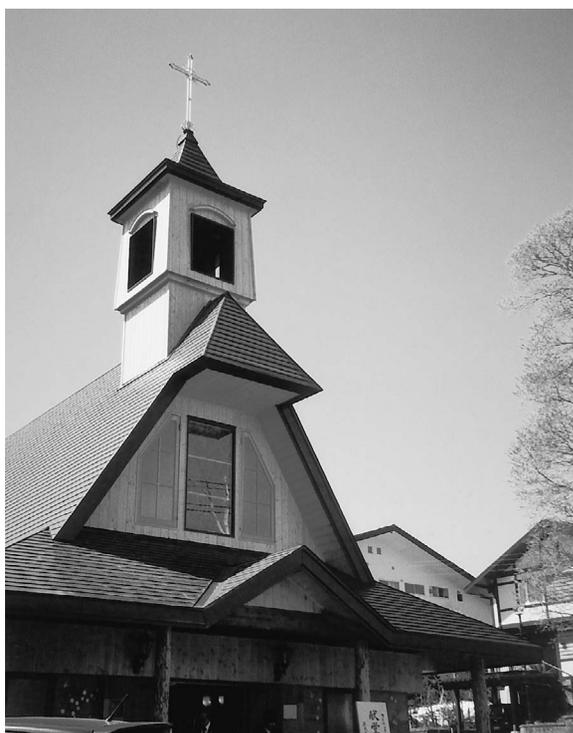
聖堂の面積は一六〇平方メートル(座席は一〇〇人分)で昨年十月に着工。国立公園にあるために十字架までの高さが十三メートル以内に抑えられているが、壁と天井はモミ材、床にはブナ材を敷き詰めて木のぬくもりを感じさせる。梁をハサミのように組んだ山小屋風の聖堂の建設には、多数の方々の協力と援助があったという。

木材はイタリアのポロニア管区から、祭壇は高田教会信徒の高窪氏(木工芸家)から、鐘楼の鐘はセルジョ・カンドゥチ氏の奥さんから、一〇〇年前に作られたという祭壇の上のステンドグラスに描かれている聖母子はイタリアのリミニ修道院から、玄関上のステンドグラスはグラツイエ修道院から、玄関左右の雪の聖母像のレリーフは陶芸家の高井 進氏から贈られたものだという。

妙高教会は一九六四年(昭和

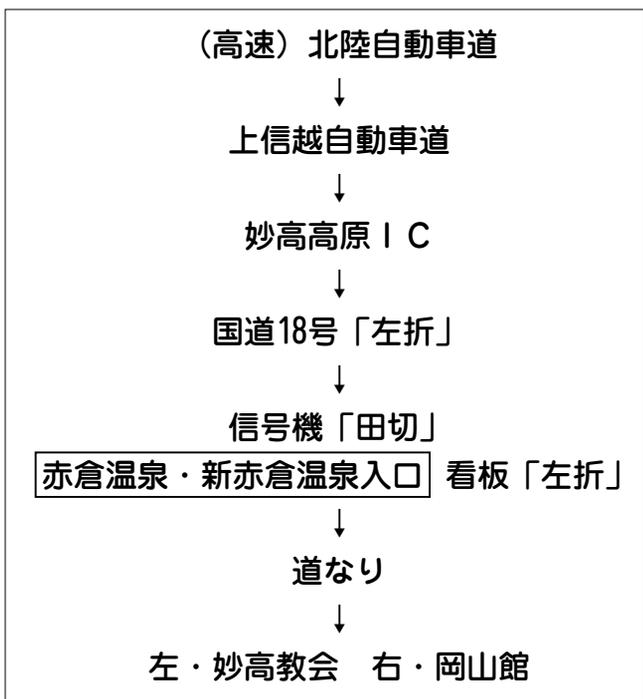
三十九年)に妙高高原駅の近くに雪の聖母に捧げた教会を献堂して以来、教区内の青少年の育成や教区内外の司祭、修道者、信徒が黙想や研修などに利用してきたが、近隣に住宅が建ち始めて、妙高教会の目標としている青少年の研修の場に良い環境とはいえなくなつたために、このたび新築移転したもので、マ

リオ・カンドゥチ神父(妙高教会主任司祭)は聖堂と宿泊施設(赤倉山荘)が教区内外からの祈りと黙想の場に、特に小・中学生の合宿や若者たちの研修にも利用できると思うので、ぜひ自然との触れ合いを楽しんで、神様の摂理と希望を感じて欲しいと建設経過を報告した。



聖母月に祝った雪の聖母聖堂

妙高教会までの順路



司教の日記

http://homepage2.nifty.com/isaoynk/BishopTop.htm

二〇〇五年二月三月

理想を高く掲げることがやめ、現実だけに馴れさせていったのでは、信仰に生きる意味がないと思うのです。

●二月一日(火) 司教の日記を始めます。

新潟教区内の全ての情報を掲載することは出来ませんが、私が司教として毎日していることなかから、出かけたところのことやしていることなど、折に触れてメモを書いておきます。ここに書いたことが私の毎日の全てというわけではないけれど、広い教区の中の情報交換の一助となればと思います。

●二月二日(水) 新潟は大雪です。

今日は主の奉献の祝日で、朝のミサでロウソクを祝福しました。午後からは東京で「東京大神学院司教常任委員会」で、明日は引き続き東京で「社会司教委員会」があります。

きょうは朝から雪が降り続いていきます。

●二月八日(火) 教区司祭の静修で、新潟教区司祭の静修が新潟教会で行われました。静修は毎月行われていますが、四旬節と待降節には指導者をお願いして黙想の日としています。今回の静修はどちらかというと教区に行く末について、意見を交換する話し合いの場となりました。

今後ともこういった話し合いを継続して、教区のビジョン作りに役立てていきます。

昼食前には佐藤司教様の追悼ミサも行いました。

●二月十三日(日) 前橋と青山教会

昨日十二日午後にはさいたま教区の前橋教会で、縁あってお話をさせて頂きました。前橋教会の主任は、さいたま教区の司教総代理を務め、つっぱり少年と共に生きることでも有名な岡神父様です。

●二月二十日(日) 新潟教会黙想会

四旬節第二主日は、新潟教会の黙想会でした。ミサ前に三分ほどの講話、ミサ中の説教とゆるしの秘蹟を行いました。寒いなか多くの信徒の方に参加して頂きました。

●二月二十五日(金) 新発田教会のことなど。

明日の昼にはJR特急「いなほ」に乗って、秋田へ出かけます。一週間は秋田におります。その間に秋田教会と土崎教会での公式訪問と黙想会、聖霊高校と聖園短大の卒業関連行事、秋田カトリック学園の理事会などいろいろです。

●三月二日(水) 秋田訪問中

●三月三日(木) 秋田の大雪

●三月七日(月) 新潟へ戻りました。

●三月十三日(日) 見附教会訪問

たのですが、直後に地震があり、今日まで延び延びになっていました。地震の被害を受けられた皆さんには、本当に大変だったと思いますし、これからの復興にさまざまな不安を抱えていらっしゃると思うことも聞かせて頂きました。出来る限りお手伝い出来ればと思いま

見附教会のパイオニアのお一人で、特に養護施設関係を今のようによく育てられた野田神父様も、すでに八〇を超える高齢ながらお元気にミサを一緒にしてくださいました。

また近隣にお住まいのフィリピン人の方々も一緒にミサに参加してくださいました。

●三月二十日(日) 枝の主日

早いものです。今年は春分の日から聖週間が始まってしまいました。御復活がくると暖かくなるのですが、今年はどうでしょうか。今日は新潟教会でミサをしました。信徒会館に集まって、そこから聖堂まで少しの距離を行列しました。今の日本では、外の道路をぞろぞろ行列するのも難しいですからねえ。聖週間は、聖香油、聖木曜日、聖土曜日、復活の主日

新潟教会で司式します。新潟教会は今日のミサのあと、復活の主日に備えて聖堂の大掃除でした。

●三月二十一日(月) 再び地震

昨日は再び日本を地震が襲いました。こんどは福岡県です。早速昨晩にはカリタスジャパンの事務局長と連絡を取り合い、

福岡教区のカリタス担当者と今後の対応を検討することになりました。まだ正確な被害状況が把握できていないため、どのような対応が出来るかは未定です。

●三月二十二日(火) 教区顧問会

今日は午後から教区の顧問会を行い、その後、司祭評議会の総会を行いました。司祭評議会は新潟県内の長岡地区、新発田・新潟地区に加えて、山形地区と秋田地区のそれぞれの地区長と選出代議員の司祭からなる、司教の諮問機関です。教区司祭だけでなく、新潟教区で働くフランススコ会、神言会、イエズスマリアの聖心会の神父様方も参加して、年に2回、総会を開催しています。今回の話し合いの内容は次回の教区報に掲載されると思います。宣教の取り組みなどいろいろなことを話し合いましたが、やはり一番の頭が痛いのは、教区財政の建て直しと司祭志願者の発掘問題です。答えが見つかりませんねえ。

●三月二十三日(水) 聖香油ミサ 今日十時から新潟カテドラルで聖香油ミサを執り行いました。秋田や山形の神父様には移動に時間がかかるため、聖木曜日ではなく水曜日に行っています。昨日の司祭評議会に参加した神父様をはじめ、全ての地区から代表の神父様が参加してください、また信徒の方も大勢おいで頂きました。

病者の油、洗礼志願者の油、聖香油の三つの油をミサの中で

祝別するだけでなく、司祭職制定のお祝い日でもあり、教皇様も毎年司祭に対してのメッセージを書かれ、いろいろと呼びかけをなさいます。今年に入院されたこともあり、メッセージは数日前にやっと届きました。司祭の霊性の本質について、ユークリスチアの視点から教えておられます。明日から聖なる三日間ですね。良い時を皆様お過ごしになりますように。

●三月二十四日(木) 聖木曜日

夕方七時から、新潟教会で聖木曜日・主の晩餐のミサを行いました。ミサの中で最後の晩餐の出来事に倣って、洗足式が行われました。十二人の男性に前へ出ていただきましたが、近頃はこの十二人を確保するのが難しいとか。司教座はその地理的条件から、すぐ近くに住んでいる人が限られているため、なかなか新しいメンバーが増えないのが悩みです。ミサに続いて聖体礼拝が小聖堂で行われ、十一時までで終了しました。



12人の足を洗う菊地司教

とここで、この小聖堂でイエスの「私の記念として」という言葉について考えていたとき、ふと、人間の記憶なんて頼りにならないものだと思ってきました。小聖堂は教皇様来日を記念

して伊藤司教様が作られたのですが、それで教皇様来日のことを思い出しました。東京カテドラルへ他の修練者と一緒に行ったことは覚えていますが。でも名古屋からそこまでどうやっていった、どうやって帰ったのか、全く記憶にありません。取捨選択していかないことは忘れように出てくるのでしょうか。

●三月二十六日(土) 復活徹夜祭

皆様御復活おめでとうございます。春らしくなりつつあった新潟も、週末は少し寒さが戻ってきています。今日は聖土曜日、夜七時から新潟教会で復活徹夜祭を行いました。聖週間の典礼は普段とは違う事がいろいろあるので緊張しますが、特に聖土曜日は緊張します。今日のことではなく昔まだ神学院にいたころの話ですが、肅々と暗闇の中玄関に集まったら、なんと香部屋に復活のロウソクを忘れてきていたり、せつかく火をともしたのに、「キリストの光」の第一声の瞬間に復活のロウソクの火が消えてしまったり、いろいろありました。

でも新潟教会の典礼は、主任司祭の厳しい指導もあり、美しくまとまっています。ミサ曲はグレゴリアンの天使ミサでした。これでクレドも歌えるのもっと美しいかも、とも思いますが。そのうちチャレンジしましょうか。

今日の復活徹夜祭ではお二人の女性が洗礼を受けられました。おめでとございます。やはりこの典礼の中で、実際に洗礼式があるというのはすばらしいことですね。感動が何倍も違えます。

新潟教区の皆様、それぞれの教会で、今夜はすばらしい復活徹夜祭を行われたことと思います。地理的には離れていても、同じ典礼の中で、まさしく復活された主イエスにあって一致していることを感じられたでしょうか。明日は共にさらに大きな喜びと感謝の心を持って、復活の主日のミサを共に祝いましょう。御復活おめでとうございます。

●三月二十七日(日) 復活の主日

秋田県、山形県、新潟県の新潟教区の皆様。御復活おめでとうございます。

今日はどうのような日曜日をお過ごしになりましたか。司教座の新潟教会では、春休みということもあり、普段以上に若い子どもたちも多く、にぎやかなミサとなりました。御復活祭が春休み中にあると、普段は部活などで忙しい子どもたちも参加できて良いですね。いっそのこと固定してしまえば、なども思っていました。なかなかかそういうわけにも行きませんね。

新潟教会ではミサ後に信徒会館でお祝いがありました。もちろん御復活のお祝いと、昨夜洗礼を受けられたお二人のお祝いと、このたび転入されてきた二組の方の歓迎を兼ねてのお祝いでした。

午後三時からは英語ミサも行われ、その参加者で再び夕方にお祝いの会が催されました。復活祭になりましたので、春はそこまで来ています。

●三月三十日(水) カリタスジャパン視察

今日から数日間、カリタスジャパンの視察のため、インドへ出かけております。インドはカリタスジャパンの最大の援助対象国で、私も毎年この時期に視察に出かけることになっております。今回はカルカタへ入った後、チェンナイへ移動し、津波の被災地を訪れる予定にしております。帰国してから詳しい報告をいたします。

* 菊地司教様はことしの二月一日にホームページ「司教の日記」を開設されました。ホームページというものは、インターネット上に公開されている情報(ニュース)のことです。このたび司教様からご了解をいただいで、「司教の日記」(ホームページ)から新潟教区に関する事柄と各小教区へご訪問の時の事柄などを教区報に掲載しました。

今回は二月一日から三月末頃までですが、今後も継続して毎月掲載したいと考えております。理由は司教様の二月一日付日記に述べられているとおりです。

ホームページから閲覧された方のために見出欄にホームページアドレスを記載しておきました。(教区報編集部)

新潟司教区統計

(2004年12月31日現在)

1. 概況 (教区人口比: 0.16%)

面積.....33,516km² 信者総数.....7,746人
人口.....4,827,027人 求道者.....88人

2. 人員構成

司教.....2 聖霊奉侍布教修道女会 邦人.....9
教区司祭 邦人.....15 外国人.....2
外国人.....1 聖心の布教姉妹会 邦人.....60
助祭 邦人.....1 マリアの宣教者
神言会員 邦人.....3 フランシスコ修道会 邦人.....3
外国人.....8 ナミュール・ノートルダム修道女会 邦人.....6
フランシスコ会員 外国人.....5 オタワ愛徳修道女会 邦人.....3
イエズス・マリアの聖心会員 邦人.....2 外国人.....1
外国人.....1 聖クララ会 邦人.....9
助祭 邦人.....1 志願者 邦人.....0
他教区から派遣司祭 外国人.....3 聖母カテキスタ会(在俗) 邦人.....17
神学生 邦人.....0

3. 事業

小教区教会.....32 幼稚園.....27
巡回教会.....4 園児数.....3,122
集会所.....4 女子中学校.....2
女子修道院.....10 生徒数.....149
社会福祉事業 女子高等学校.....2
老人ホーム.....3 生徒数.....1,356
宿泊を伴う利用者数.....195 女子短期大学.....2
その他の老人福祉事業.....13 学生数.....652
宿泊を伴う利用者数.....1,158 児童福祉事業
宿泊を伴わない(年間のべ人数).....42,799 保育園.....7
その他の福祉事業.....2 園児数(年間のべ人数).....154,254
宿泊を伴う利用者数.....9 宿泊を伴う利用者数.....0
宿泊を伴わない(年間のべ人数).....2000 その他の児童福祉事業
宿泊を伴う利用者数.....21,850
宿泊を伴わない(年間のべ人数).....610

4. 移動

| | | | |
|------------|---------|---------|---------|
| 転入 | 転出 | その他 | |
| 教区内.....15 |16 |3 |2 |
| 教区外.....33 |42 | 死亡..... |66 |

【県別内訳】

■新潟県 面積.....9,323km²
県庁統計課 TEL.025-285-5511 人口.....1,222,847人
<http://www.pref.niigata.jp/sougouseisaku/tokei/box/> 昨年、1,229,230人
面積.....12,582km² 信徒数.....854人(人口対比0.07%)
人口.....2,446,326人 844人
昨年、2,455,480人
信徒数.....4,947人(人口対比0.20%)

■秋田県 県庁統計課 TEL.0188-60-1258
<http://www.pref.akita.jp/tokei/j-a-b.htm>
面積.....11,611km²
人口.....1,157,854人 昨年、1,166,092人
信徒数.....1,794人(人口対比0.15%)
1,793人

■山形県 県庁統計課
TEL.0236-30-2179・2180
<http://www.pref.yamagata.jp/tokei/home.html>

2004年(平成16年)度教区一般会計収支

(2004年12月31日現在)

(単位:千円)

| | 16年度 | 15年度 | 対前年比 |
|---------------|--------|--------|--------|
| 負担金収入 | 19,783 | 18,421 | 1,362 |
| 小教区負担金(教区維持費) | 9,337 | 8,842 | 495 |
| 司祭活動負担金 | 2,912 | 2,600 | 312 |
| 一粒会負担金 | 5,164 | 4,590 | 574 |
| 学校法人負担金、他 | 2,370 | 2,389 | -19 |
| 寄付金収入 | 23,235 | 12,531 | 10,704 |
| 司祭寄付金 | 11,880 | 11,860 | 20 |
| 一般寄付金、他 | 11,355 | 671 | 10,684 |
| 補助金収入 | 364 | 359 | 5 |
| 献金収入 | 2,918 | 3,352 | -434 |
| その他の収入 | 283 | 209 | 74 |
| 収入合計 A | 46,583 | 34,872 | 10,844 |

| | | | |
|----------------|--------|--------|--------|
| 宗教活動費 | 13,824 | 7,151 | 6,673 |
| 神学生養成費 | 3,985 | 3,580 | 405 |
| 祭儀費、他 | 9,839 | 3,571 | 6,268 |
| 事務運営費 | 5,025 | 5,897 | -872 |
| 人件費 | 22,273 | 21,778 | 495 |
| 司祭人件費(法定福利費含む) | 14,688 | 13,223 | 1,465 |
| 職員人件費 | 6,757 | 7,658 | -901 |
| 通勤手当、他 | 828 | 897 | -69 |
| 維持管理費 | 965 | 8,907 | -7,942 |
| 支出合計 B | 42,087 | 43,733 | -1,647 |
| 収支 C = A - B | 4,496 | -8,861 | 13,357 |
| 前年度繰越金 D | 82,340 | | |
| 次年度繰越金 C + D | 86,836 | | |

教区財政の

確立を目指し

昨年度の教区一般会計は、司教叙階式の関係で、各小教区にお願いした寄付や、叙階式に伴う費用の支出があったことから、例年より収入、支出とも規模が大きくなった。また、本来であれば赤字になる可能性もあったが、その他にも寄付があったことや大きな修繕等の支出がなかったこともあって、十六年度は、約四五〇万円の黒字となった。

教区の財政は、各小教区から納められる「教区維持費」が大きな財源であるが、もうかなりの間、横ばいの状態が続き、殆どが必要経費で消えてしまうこと

「司祭寄付金」見直しへ
二〇〇四年度教区会計報告

とが財政を苦しめている一つの要因である。つまり、十五年度のように、大きな修繕や建築などが行われれば、たちまちその分が赤字になってしまうことになる。他の教区でも教区に納められる負担金の%の見直しが行われており、新潟教区でも、今後どうするかを検討する時期に来ていると言える。

また、もう一つの要因は、支出の中で大きな割合を占める「司祭人件費」である。これに含まれるものは司教様初め、新潟・新発田地区内の幼稚園にわたっていない司祭達の人件費である。かつては殆どの司祭が幼稚園の園長をしており、幼稚園にわたっていない司祭が少なかったため、その寄付金(「司祭寄付金」)で給料がすべて賄われていたが、司祭の増加に伴い、それも限界に近づきつつあった。そのころ佐藤司教様の教区財政に関する教書が出され、各地区で「司祭活動負担金」が集められるようになり、新潟・新発田地区の各小教区から納められる負担金も人件費に充てられるようになった。そのため、当初は十分に人件費が賄われ、財政も好転したが、その後、園児の減少により寄付が難しくなったり、高齢化などで幼稚園に関わる司祭が減少したりしたこともあって「司祭寄付金」が減少し、「司祭活動負担金」も伸び悩み、一方では幼稚園にわたっていない司祭が増えたこと

もあって「司祭人件費」の支出が増え、収支がほぼ同額になってしまっている。つまり、今のままの状態が続き、幼稚園に関わらない司祭が一人でも増えれば、その分が不足してしまう状況にあり、全体の収支に影響を及ぼすことになる。そこで、まず手始めに「司祭寄付金」の仕事の見直しを行い、将来は他の地区を含めた司祭全員の人件費を教区から支払える体制を作ろうと、教区司祭の月の集まりや司祭評議会などで検討が始められ、六月の「教区司祭の集い」で司教様からこれに関する提案がなされる予定である。(教区会計 川崎神父)